

【新聞活用学習】小学4年生・総合的な学習の時間

「N I Eの活用を視点においた探究的な学びの実現について」

指定校1年次 小海町立小海小学校 井出 優絵

（1）本年度のN I E活動の概要

昨年度、本校では教育課程研究協議会にむけて総合的な学習の時間の授業のあり方についての研究を行ってきた。「探究的な学びを充実させるための探究課題の設定及び支援のあり方について」をテーマに、学年ごと探究課題を設定し、子どもたちと共に総合の授業づくりを行ってきた。

そこで今年度は、「N I Eの活用」を視点において、総合的な学習の時間だけでなく、各教科においても探究的な学びを実現できるよう授業研究を行っていくこととした。

（2）本年度のN I E活動の取り組み状況

本校は全校児童160名、全学年単級の8学級である。対象学年の4年生は昨年度、総合的な学習の時間での学習成果の発表形式を選ぶ際に、新聞制作を選んだグループがあった。また、夏休みの一課題に新聞制作を選んだ児童がいた。しかし、全員で新聞制作に取り組んだことはなかった。

研究部会では、どの職員も様々な教科や場面で新聞作りの活動を行った経験があった。また、新聞活用についても、導入の場面や活用の場面などで新聞を取り入れた経験があった。そこで、今年度1年をかけて担当学年の各教科においてN I Eが活用できる場面を考え、実践し、蓄積していくこととした。

（3）N I E活動のねらい

全校重点研究テーマ「自分らしさを発揮し、自ら問い自ら学ぶ子どもたちの育成を目指して～ヒト・コト・モノを見つめてつながり表現する～」より、総合的な学習の時間だけでなく、各教科においても子どもたち自身が問いを持ち、学んでいく力を育ていきたい。そこに「N I Eの活用」を行うことで、より自分らしさを発揮し、自ら問い自ら学ぶ子どもたちの育成ができるのではないかと考えた。

（4）全校での取り組み

子どもたちにとって新聞をより身近な存在として感じられるように、以下の5つの取り組みを年間通じて行ってきた。

①新聞コーナーの設置

日頃から子どもが自由に使っていいスペースに新聞を設置し、読めるようにした。また、庁務の先生に新聞を置く台を1台作ってもらい、毎日の新聞を展示するようにした。さらに、家庭で新聞を取っていない子どもが記事をスクラップするために、興味をもった記事は自由に切り抜いてよいことにした。

②新聞作成アプリ「ことまど」の活用

今年度は希望により4年生と6年生が新聞作成アプリ「ことまど」を利用した。

6年生では修学旅行に向けて調べてきたことを1人ずつ「ことまど」を使って新聞にまとめたり、社会見学に行ってきたことを新聞にまとめたりした。

4年生では総合的な学習の時間で調査した道祖神について、グループごとに「ことまど」

を使って新聞にまとめた。

③信濃毎日新聞データベースの活用

子どもが直接データベースを使って調べることは少なかったが、教師が教材研究に利用したり、教師の方であらかじめ選んでおいた記事子どもに見せたりするのに活用した。

④週1回、朝の時間を使って「NIEタイム」

隔週に1回、朝の時間の15分間を使い『NIEタイム』と称して、全校で新聞を活用した学習を行った。

内容としては、学習に関係する新聞記事、または教師が紹介したい新聞記事の紹介、新聞スクラップ、企業が配信している新聞ワークシートの活用、1分間スピーチなど、各学年の実態に合わせて取り組んだ。

1年生では信濃毎日新聞で毎週1回掲載される「こども新聞」を電子黒板に映したものを教師が読み、その記事について解説し、子どもたち同士で意見交換を行った。5年生では家庭学習でスクラップしてきた記事について、スクラップノートに感想を記入したり、友だちと意見交換したりした。このように各学年の子どもの実態に応じて、新聞に触れる機会を設けてきた。

⑤保護者への周知

「NIEタイム」や新聞スクラップの取り組みを始めるにあたって、保護者の方にもご協力いただけるよう「NIEへの取り組みについてのお知らせ」という通知を配布した。内容としては「本校でのNIEへの取り組みについて」や「新聞スクラップのやり方について」、「保護者の皆様へのお知らせ」などを載せた。

(5) 公開授業の活動内容

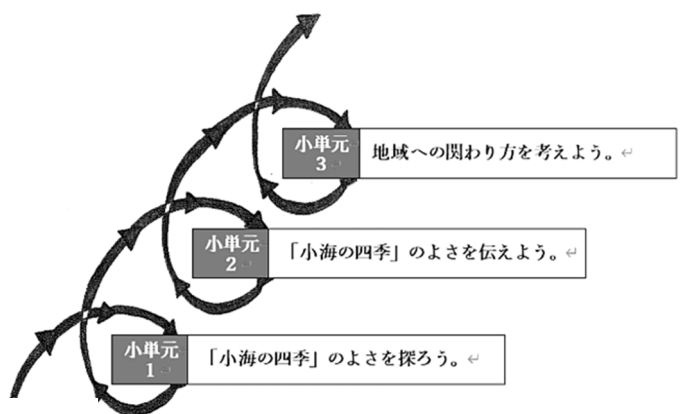
1. 第4学年 総合的な学習の時間「小海の四季」 (全30時間)

2. 単元設定の理由

昨年度の活動を振り返る中で子どもたちは、「小海の自然は、四季によってもよさがちがうから調べてみたい。」という願いをもった。「四季ごとのよさ」について話し合えば、小海町の素晴らしさを焦点化できると考え、話し合いの場を設けた。話し合いの中で、A児が「小海小のいちょうの木やいつも見ている景色の変化を調べたい。」とつぶやいた。

それを聞いて、「四季ごとにきれいな花がある。」「空がきれいな時期もあれば、山の色がきれいな時期もある。」「自分たちで感じたことを写真として残したい。」と共感し、さらに内容を広げる声が上がった。そこで教師は昨年度総合で行った「町たんけん」の中の四季に焦点化して「小海の四季」について学習を進めていくことを提案した。

子どもたちが「小海の四季」写真を撮りためていくうちに、地域の人に「自分たちが感じた四季のよさを伝えたい。」「小海小で過ごした日々を思い出してほしい。」「昔を思い出す中で、



改めて小海っていいところだなと感じてもらいたい。」という新たな願いをもつようになった。

「小海の四季」について興味・関心のある子どもたちが、実際にその場所を訪れ、写真に撮り、伝えたい相手に合った内容や方法で表現することを通して、小海町の素晴らしさを再確認し、小海町のために自分ができることを考える態度を育むことができると考え、本単元を設定した。

3. 単元の目標

「小海がいいところだということを伝えたい」と願っている子どもたちが、小海の四季の移り変わりについての写真を撮ることを通して、小海には四季折々の景色のよさがあることを理解し、自分の伝えたいことを相手に応じて内容や方法を考え、表現するとともに、小海町のために自分ができることを見直すことができるようにする。

4. 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 小海町には四季折々の景色のよさがあることを理解している。 ② 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。 ③ 「小海の四季」のよさへの理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気づいている。	① 「小海の四季」について、自分の関心から課題を設定し、解決の見通しをもっている。 ② 興味や疑問にもったことを、自分たちの身近なところや新聞などを使って情報を集め、整理している。 ③ 自分の伝えたいことを表現方法の特徴や表現の目的に合わせてわかりやすくまとめている。	① 課題解決に向けた自分の取り組みを振り返ることを通して、自分の意思で探究活動に取り組もうとしている。 ② 小海町のよさを伝えるために、友だちの考えを生かしながら、協働して課題の解決に向けて取り組もうとしている。 ③ 小海町のために自分にできることを考えることを通して、自分と小海町との関わりを見直そうとしている。

5. 指導と評価の計画(30時間)

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 「小海の四季」のよさを探ろう。(7時間)	・「小海の四季」について経験やイメージをみんなで共有し、四季折々の景色のよさに関心をもつ。		①		・行動観察 ・発言内容
	・学校で見ている景色を春・夏ごとに撮りため、クラスで四季ごとの景色のよさを共有する。	① ②			・行動観察 ・発言内容 ・表現物
	・撮ってきた写真から、「小海の四季を伝えよう」という単元を通じた課題を設定する。			①	・発言内容 ・学習ノート
2 「小海の四季」のよさを伝えよう。	・撮りためた写真を使って、「小海の四季」のよさをどんな人に何を伝えたいのか話し合い、内容や方法について見通しをもつ。		①		・行動観察 ・発言内容

(18時間) <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">本時</div>	・信濃毎日新聞社の出前講座やスクラップノート の活用から伝えたいことに見出しをつける 方法を知る。	①			・行動観察 ・発言内容
	・撮りためてきた写真の中から数枚選び、自分 の伝えたいことを書き出す。	①	②		・行動観察 ・発言内容 ・学習ノート
	・信毎のデータベースを活用し、新聞では四季 のよさを伝える記事がどのように書かれて いるのか調べて、自分や友だちの伝えたいこ とについての見出しを考える。 ・それぞれが考えてきた見出しをもとにグループ で話し合い、自分の写真の見出しを決定する。		③	②	・行動観察 ・発言内容 ・学習カード
	・「小海の四季」のそれぞれのよさを全体で共有 し、撮りためた写真を使って、自分だけの作 品を作成する。 ・地域の人に見てもらおうよう準備し、願います。	③	③		・行動観察 ・発言内容 ・表現物
	・作品を見た人からの声や手紙をもとに活動を 振り返り、さらに調べてみたいことを考え、 課題を設定する。			①	・発言内容 ・学習ノート
3 地域への関わり 方について考え よう。 (5時間)	・地域おこし協力隊の人を招き、小海町への関 わり方や生き方について聞き、これからの自 分たちの関わり方について友だちと交流し たり、地域おこし協力隊の人たちと考えたり する。 ・小海町のために自分ができることを考え、地 域おこし協力隊や町長に手紙を書く。		③	③	・発言内容 ・表現物
	・これまでの活動から「小海の四季」について 振り返り、まとめる			③	・発言内容 ・学習ノート

6. 学習指導案

①本時の主眼

新聞の見出しの作り方や表現方法を参考に、自分や友だちの選んだ写真の見出しを考えてきた子どもたちが、自分の考えを伝え合ったり、掲示物をヒントに考えたりすることを通して、自分の伝えたいことが表れた写真の見出しを決めることができる。

②本時の位置（30時間中14時間目）

前時：信濃毎日新聞のデータベースから、いろいろな表現を調べて、自分や友だちの写真の見出しを考えた。

次時：自分が選んだ他の写真について、見出しを考える。

③指導上の留意点

- ・その見出しを考えた理由を伝えられるように、前時までに学習カードに記入しておくように声をかけておく。
- ・本時までに参考になるような表現をデータベースで調べて印刷し掲示しておき、いつでも見ることができるようにしておく。

④本時の展開

段階	学習活動	予想される児童の姿	◆支援・□評価	時間
導入	<p>单元をつらぬく願い： 「小海の四季」について、町の人によさを伝えたい。</p> <p>学習問題：伝えたいことに合った見出しを考えよう。</p>		<p>◆伝えたいことにあった見出しにするにはどうしたらいいかという問いをもつために、前に作った見出しを提示し、子どものつぶやきを取り上げ、全体に問い返す。</p> <p>◆追究の見通しをもつことができるように、見出しの作り方や新聞記事の表現に関するつぶやきを取り上げ、全体に問い返す。</p>	10
	<p>① 追究の見通しをもち、学習課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを見出しでまとめたけれど、自信が無いなあ。 ・新聞の見出しに、〇〇さんの伝えたいことにぴったりな言葉があったよ。 ・友だちの考えてくれた見出しのいいところを見つけて、自分の見出しの参考にしたいな。 		
展開			<p>◆子どもたちが、お互いの考えを出し合う中で、友だちの考えの良さを見つけるように促す。</p> <p>◆伝えたいことに合う見出しを話し合う中で、言葉の意味や新聞の中での使われ方がわからないときは、掲示物で確認するよう促す。</p>	25
	<p>② グループで考えてきた見出しを伝え合ったり、掲示物を見たりして、それぞれの写真の見出しを考える。</p> <p>③ クラス全体で、それぞれのグループが考えた見出しを共有する場を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、青い空とイチヨウの木の緑がいい景色になってきて、新しい春がやってきたのを伝えたい。「青空とイチヨウの緑がきれい」とかどうかな？ ・貼ってある新聞記事に「新緑」って表現があったよ。 ・「新緑」って言葉を使えば、4、5月頃の葉が緑色に色づいていく景色を表せそうだよ。 ・なるほどね。イチヨウの木の緑色は「新緑」ってしたら春らしさが出るね。 ・青い空ってことは、太陽の光で光って見えるから「新緑輝く」がいいね。 ・私は、「春の青い空の下でイチヨウの木の緑色がきれいに見えた」のを「イチヨウの木 青空に新緑輝く」と考えました。 ・自分の伝えなかった「5月に撮った花がきらきらしていて花火みたい」だったのを、友だちと考える中で、「日差し浴びた 大花火」という見出しにしました。 		

終末	④ 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで伝え合うことで、自分の伝えたいことに合ういい表現が見つかった。 ・グループで考えることで、自分が思っていた見出しよりもいい見出しになった。 ・自分で撮った他の写真にもいい見出しをつけたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆探究的な学習をしていくことのよさを振り返っている児童の発言を取り上げ、全体で共有する。 ◆追究する中で出た課題を取り上げ、次時へつなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いにあった見出しを決めることができる。 <p style="text-align: center;">（発言内容・学習カード）</p> </div>	10
----	---------------	--	--	----

7. 研究会で示唆されたこと

- ・言葉を短くすることからヒントを得て、友だちの意見も見出しも参考にして、最初とは違った実際の新聞のような見出しになっていた。
- ・日頃から新聞を身近に感じている様子が伝わってきた。表現を知る良い教材だと感じた。
- ・それぞれの感じ方が違うが、お互いに意見を伝え合うことに意味があった。
- ・写真を撮った瞬間の気持ちをメモしておけばもっとよかったのではないかな。
- ・友だちからのアドバイスが自分の思いからずれてしまい、悩んでいる子もいた。話し合いの内容をしばるともっと良かったのではないかな。
- ・子どもたちが伝えたいことをキーワードや文章で書いている子が両方いたが、文章を書いたから考えると、なお見出しが浮かんだのではないかなと思った。

（6）児童の反応・成果と課題

1. 児童の反応・成果

○自ら問いをもつきっかけ作り

- ・授業で学んだ学習内容に関係した記事をスクラップする子が見られた。
 - ・国語の教科書通りの内容や記事より、信濃毎日新聞に掲載される「こども新聞」を導入で使ったことで、子どもにも読みやすく、身近なこととして感じる事ができた。また、算数では、円高・円安や円が売り買いできることを知ったことによって、新聞の記事に興味をもつことができた。
 - ・スクラップノートに取り組むことで、自分の興味があることを知り、自分を知る機会になった。
 - ・友だちとスクラップノートを見合うことで、友だちの興味ある内容を知ったり、新たな興味をもったりする子どもが増えた。
 - ・新聞から小海に関係する記事を見つけてくる児童もいて、地域に関心をもつきっかけになった。
 - ・「NIEタイム」で新聞記事を紹介すると、「家でも見たよ」という声が聞かれるようになった。
- ⇒これらのことから、新聞記事を扱うことによって、社会の出来事・自分自身や友だちへの興味・関心をもつことができ、授業で学んだことと関連して自ら問いをもち、新聞記事を探すなど、探究的に学ぼうとするきっかけ作りとなった。

○自ら学ぶ姿の育成

- ・算数「概数」の学習では、新聞の中で概数が使われている記事を見つけたり、見つけた概数の表し方（～の位までの概数・上から～桁の概数）を考えたりすることで、自ら学ぶ姿が見

られ、学習内容の定着に効果があった。

- ・和語・漢語・外来語の学習の際に、新聞の記事から和語・漢語・外来語を見つける活動を熱心に行った。
 - ・社会・理科では、学習内容にあった新聞記事を提示（台風19号・熊本地震・洪水・皆既月食など）をすることで、子どもたちが意欲的に学習に取り組むきっかけとなった。
- ⇒これらのことから、新聞の記事を使うことによって自ら学ぼうとする子どもたちの姿があった。

○各教科の基盤となる資質・能力の育成

- ・新聞では四季のよさをどう伝えているのかを調べることで、新たな表現方法を知ったり、また知っている言葉でも改めて意味を調べたりすることで、自分の伝えたいことにあった表現を見つけ出し、短くわかりやすくまとめることができた。
 - ・スクラップノートに取り組むことで、普段見慣れない情報量の多い新聞から自分の気になる記事を見つけ出すために、写真と見出しを見て大まかな内容を捉えたり、内容を要約したりして、情報を読み取る力がついた。
 - ・家庭学習として取り組んでいるスクラップノートでは、読めない漢字を保護者と一緒に読んだり、内容について家族で話したりすることができ、コミュニケーションツールの一つとなっている家庭もあった。
- ⇒これらのことから、新聞記事を扱うことによって、多様な表現や語彙の獲得、必要な情報の選択、コミュニケーション能力の育成につながった。

2. 課題

- ・新聞記事には習っていない漢字が多く、内容も難しいため、説明する時間が増えてしまい、自分たちで考える時間をなかなか取れなかった。
 - ・新聞をとっていない家庭もあるので、取り組みの差がどうしても出てしまう。家庭でとっていない子どもは学校でとっている新聞からスクラップするようにしているが、その時間を作ることもなかなか難しく、パッと見てスクラップするような形になってしまっている。
- ⇒新聞を子どもの力だけで読み解くことは難しい。漢字の読みだけでなく、説明も交えながら一緒に読んでいくようにしたい。保護者にも引き続きご協力いただけるようお願いしていく。
- ・各教科の授業で新聞記事を扱うには教材研究が不可欠である。
- ⇒新聞を活用した実践事例を集め、小海小学校の財産として来年度以降の参考にしていく。